

# 福祉にいがた

Fukushi Niigata

## CONTENTS

### 巻頭特集

あなたは一人じゃない  
—活動続ける「新潟いのちの電話」(2・3面)

- 令和8年度県予算案、福祉団体が知事へ要望
- ぴっくあっぷ市町村社協—三条市社協「ユニバーサルスポーツ」

2月号  
2026  
第882号

絵「メザシ」 作・新井 里沙（加茂市）  
作品よもやま—お皿のメザシ。この後、ご飯のおかずになった



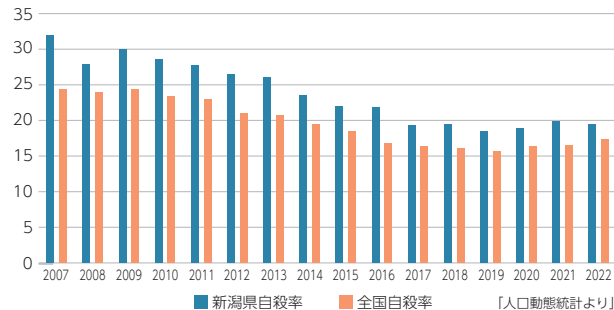
# 受話器通して寄り添い

## 40年で70万件超に耳傾け

悩みや苦しみを抱える人たちの相談を電話やインターネットで受ける社会福祉法人「新潟いのちの電話」（及川紀久雄理事長）。活動は既に40年以上続き、これまでに70万件以上の相談を受けました。相談員の減少など厳しい状況に直面していますが、「話を聞いてほしい人がいる限り、一人ひとりに寄り添っていききたい」と年中無休24時間、ボランティアで対応しています。

「新潟いのちの電話」は1984（昭和59）年4月に開局しました。背景には、新潟県の人口10万人当たりの自殺率が全国平均と比べて非

グラフ① 新潟県と全国の自殺死亡率（人口10万人あたり）



常に高い状況がずっと続いている実態があります。グラフ①Ⅱ。一人でも助けたいという思いから、団体や企業などの有志が資金を出し合い、活動が始まりました。電話相談の件数は、2000

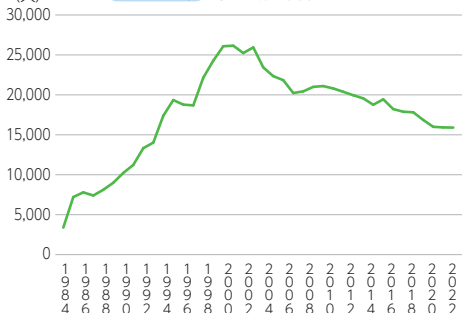
### 巻頭特集

0年から2003年ごろの2万5000件超をピークに減少傾向となり、現在は年間1万6000件ほど。グラフ②Ⅱ。その約6%が「自殺志向あり」といいます。新型コロナウイルス感染症禍が広がった2020年5

## 新潟いのちの電話

## なり手不足、財政難が課題

グラフ② 総受信件数の推移



月から23年5月までの期間は、全体の1割以上を感染症関連の相談が占め、「自殺志向あり」の相談も通常よりやや高くなりました。「人と人との距離を取ることが推奨される中でつながりが断たれてしまった。感染禍が落ち着いた後もその状態が続いていて、悩みを人に相談できず苦しんでいるケ

スが見られます」と村山美和事務局長は言います。

1日あたりの電話相談件数はおおむね40件余りで、多いと50件を超えることも。時間帯などにより1人または2人体制で応じていますが、「受話器を置くと、すぐに次の電話がかかってくる。話が長引くと2時間近くに及ぶケースもあります。時間で区切るわけにもいかなければ、相談員がもっと多ければ、もっとたくさんの電話に対応できるのですが」と村山事務局長は説明します。

相談員は現在約130人。60〜70代が多いそうです。かつては2000人を超えていましたが、定年後も働く人が増えてきたことから、なり手不足が深刻です。

運営費の半分は寄付金で賄われていますが、会員の高齢化などで寄付が減り続け、ここ数年は年間300万円の赤字を出すなど、財政ひっ迫も深刻な課題となっています。

# あなたは一人じゃない

## 一緒に考える姿勢を大切に

### 相談員「自分も成長できるのが魅力」

新潟いのちの電話の相談員の仕事は1回4時間程度、それぞれの都合に応じて月2〜3回です。

相談員になるには審査を経て約1年間にわたる養成講座を受講し、認定を受けます。認定後も毎月1回の研修を受けなければなりません。

相談員の一人、70代のA

男さんは「いろいろな人の苦しみを聞きながら自分も成長できるのが、この仕事の魅力」と言い、「自分は一人じゃないと思えることが、立ち上がる力になる。相手の気持ちに立つてものを考えられるようになり、家庭内も円満になりました」

よ」と笑顔を見せます。

新潟いのちの電話は「同じ市民感覚を持った相談員が相談者に寄り添いながら話を聞き、説得するのではなく一緒に悩みを考える」というスタンスを大事にしています。しがらみなく自由に話してもらえよう、相談者の住所や名前を聞く

ことはなく、相談員の身元も明かさないので決まりです。

以前電話した人がまたかけてくることもあり「あるとき話を聞いてもらって本当に助かりました、という声に支えられている」という相談員もいるそうです。顔も身元も分からない者同士。相談員たちは今日も受話器を通して、つらい思いを抱えた人たちに寄り添い、心を通わせようと静かに奮闘しています。



電話相談を受ける相談員。顔の見えない相手に寄り添おうと心を砕く

### ■これまで寄せられた相談の一部

(新潟いのちの電話 40 年記念誌「聴」より抜粋、再構成)

#### ▼会社を解雇されてつらい

10 年以上頑張って勤めた会社の経営がうまくいかず、解雇された。今も仕事は見つかっていない。何社も断られると自分を否定されているようでつらい。食欲も気力もなくなり、悪い方にばかり考えてしまう。

#### ▼寂しくて誰かとつながりたい

独身で一人暮らし。長く母と暮らしていたが、昨年暮れに母が亡くなった。とても寂しく、新盆が過ぎた頃から孤独感が強くなった。誰からも電話は来ない。誰かとつながりたくて電話した。

#### ▼新型コロナウイルス感染で神経質に

新型コロナウイルスに感染して以来、いろいろなことが怖くなってしまった。またかかるのでは、誰かにうつすのでは…と神経質になり、家族にも手洗いやうがい、マスク着用を口うるさく言って、トラブルになっている。一緒に住んでいても避けられているようで、つらい。

#### ▼故郷の母が心配

故郷にいる母の看病に行きたいと会社に申し出たら、「感染禍のこの時期に行くのか」と言われてしまった。母は「大丈夫だからいいよ」と言うが、心配で仕方がない。休日に一人でいると涙が出る。いっそ仕事を辞めて故郷に戻った方がいいのだろうかと思っている。

### ■新潟いのちの電話

025(288)4343

新潟いのちの電話のホームページはこちら



### ■自殺予防いのちの電話

0120(783)556  
全国どこかのセンターにつながります。毎月 10 日（午前 8 時～翌日午前 8 時）と毎日 16 時～21 時はフリーダイヤル。

### ■新潟県こころの相談ダイヤル

0570(783)025



生まれ育った沖縄から遠く離れた村上市に家族で移り住み、杖を企画・販売している青年がいます。高江洲昌太さん、37歳。ゆったりした生活環境と利便性を求め、たまたま出合ったこの土地をとて

生きる

も気に入っているといひます。高江洲さんが販売する杖は、軽くて丈夫で見た目もファッションナブルな一品。福祉用具のイメージを変えて、埋もれたニーズにこたえていきたい」と、自然体で夢を追ひ続けています。

## 強く優しく 支えたい

高江洲さんの経歴は多彩です。沖縄の専門学校を出た後、理学療法士として病院やデイサービスでリハビリに携わりました。その後オーストラリアにワーキングホリデーで1年間滞在。農場などで働きながら、ウェブ制作を学びました。帰国後は沖縄でシステムエンジニアとして働いていましたが、もともとゆったりした環境で働きたいと願ひ、移住先を探していたところ、家族での移住支援プログラムを行っていた村上市と出会い、昨年6月に妻子を連れて同市布部に引つ



「ゆったりしていて便利でもあるこの土地を気に入ってます」と笑顔で話す高江洲昌太さん

理学療法士の経験生かし

## 機能性とデザイン性追求

越してきました。杖を販売する会社は沖縄で既に立ち上げていました。

「沖縄も大好きですが、密度が高くて土地も高い。自然豊かな環境で心も体も

のびのび暮らしたいと思っていたんです」  
布部は山あいの静かな集落。「周囲の人たちが親切で、食や水がいい。車で10分走ればスーパーや大型店もある。関東や関西にも行きやすく搬送コストも沖縄より安い。本当に気に入りました」と高江洲さん。

杖の企画・販売の原点は理学療法士時代の経験で



アルミ合金製の伸縮式。色見もおしゃれな、その名も「超軽量疲れな杖」

した。「リハビリ用の靴には使いにくいものがあり、『なんでこんなものを』と疑問に感じた。

杖にしても、もっとデザイン性の高いものがあれば抵抗なく持てるのに、と

外国で作られた杖に独自の改修を加え、ネット販売を展開。1本3000円余りの商品は、アマゾンや楽天市場で高い人気を呼んでいるといひます。

「早く届けられるのもセールスポイント。基本はあくまで実用性ですが、色のバリエーションを増やすなどしてギフトとしての需要を開拓し、みんなに喜んでもらえる商品を届けた」と高江洲さん。

杖の認知度をさらに高めるとともに、いずれば靴の販売もしたいとビジョンを描いています。

(株) 高江洲商事  
新潟営業所

〒958-0231 村上市布部 3128 番地1  
☎ 090-5741-3330  
メール s\_takaesu@takaesucorp.com  
ホームページ https://takaesucorp.com



# 赤い羽根情報

村上市共同募金委員会の「赤い羽根共同募金助成」を受け、村上 ohana ネットが、村上・いわふね地域で子育てする家庭や女性の経済的支援のためのリユース活動を実施しました。ありがとうございましたのでご紹介します。

## リユース品譲渡、子育て支援

ありがとう  
メッセージ

「村上 ohana  
ネットから

令和4年8月豪雨による被災や経済的な困難を抱える子育て家庭や女性を対象に、必要としている人・希望者へリユース用品（学生服・体操着・文房具等）、子ども服、婦人服、子育て用品、生理用品の譲渡を行い経済的支援の一助としていただきました。

また、フードバンクと連携して随時フードドライブを実施し、寄付品の支援を必要とする家庭へ届けていただきました。制服や子ども服については、地域に呼びかけ、物品の寄付を

受け、それらを回収後、必要に応じて洗浄や修繕を行い、希望者へ譲渡しました。生理用品については、団体での譲渡のほか、村上市内の高校で定期的な配布を行いました。

制服の譲渡については、村上・いわふね地域で約50件、物品数にして約100点の利用がありました。アンケート結果からは、ひとり親家庭や経済的困難を抱える家庭の利用が多く「この支援がなければ、子どもを入

## 能登半島地震義援金の募集延長 県共募

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の新潟県内被災者支援のため、新潟県共同募金会が呼び掛けていた災害義援金の締め切りが、令和7年12月31日から令和9年3月31日に延長されました。

学させるために借金が必要だった」といった切実な声や、感謝の声が多く寄せられました。

また、生理用品の配布を知った市内の小・中学校からも問い合わせがあり、毎回生理用品を受け取りに来る子どもに対して



村上 ohana ネットが行った子ども服などのリユース活動

定期的に支給し、フードバンク等必要な支援につなぐことができました。こうした支援を必要とする子育て家庭や女性が依然として多いことを実感した一年でした。

支援活動は、時間・人材・財源があることで継続できます。村上市共同募金委員会にご寄付をお寄せくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

村上市は広域であるため、各地域で気軽にリユース品の寄付や譲渡が行える仕組みが整えば、より利用しやすく、地域で地域の親子を支える活動へとつながると考えています。今後は、そのような仕組みづくりを目指し、さらに活動をより良いものにしていきたいと考えています。

引き続き、ご協力をお願いします。

義援金の受付口座は次の通りです。

▽第四北越銀行白山支店  
普通 1590791

【口座名義】社会福祉法人新

潟県共同募金会

▽大光銀行新潟支店

普通 3043002

【口座名義】社会福祉法人新

潟県共同募金会

▽ゆうちょ銀行

00130000515716

【口座名義】新潟県共募能登

半島地震災害義援金

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

## ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

商品パンフレットは  
コチラから( ふくしの保険 )  
ホームページ

## &lt;重要&gt;

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

## ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

## 送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償  
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ24-10057より抜粋〉



## 令和7年度 新潟県社会福祉協議会 賛助会員 ご支援・ご協力ありがとうございました。

本会の活動の趣旨にご賛同いただき、多くの皆様から会費をお寄せいただきました。

本会が取り組んでおります地域福祉向上のための広報、啓発活動などさまざまな事業に活用させていただきました。今後とも、ご理解とご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【企業・団体等】(敬称略)	【企業・団体等】(敬称略)	【企業・団体等】(敬称略)
株式会社新潟日報社	株式会社コロナ	新潟県火災共済協同組合
株式会社新潟放送	株式会社本間組	学校法人新潟総合学園
株式会社NST新潟総合テレビ	株式会社植木組	学校法人新潟平成学院
株式会社テレビ新潟放送網	新潟冷蔵株式会社	学校法人新潟青陵学園
株式会社新潟テレビ21	株式会社福田組	学校法人敬和学園
株式会社第四北越銀行	アクシアル リテイリング株式会社	学校法人新潟科学技術学園
株式会社大光銀行	株式会社ブルボン	公立学校法人新潟県立看護大学
新潟県信用農業協同組合連合会	株式会社BSNアイネット	株式会社新宣
新潟県信用組合	株式会社電通東日本新潟支社	株式会社たかだ
新潟信用金庫	ホリカフーズ株式会社	株式会社新潟クボタ
三条信用金庫	株式会社アークベル	旭ビル管理株式会社
新潟県労働金庫	公益財団法人新潟県女性財団	ゆきぐに信用組合
株式会社新潟日報メディアネット	社会福祉法人恩賜財団済生会支部	学校法人国際総合学園
東北電力株式会社新潟支店	新潟県済生会	株式会社ウオロク
セコム上信越株式会社	新潟日報会	上越ケーブルビジョン株式会社
新潟総合警備保障株式会社	一般社団法人新潟県健康管理協会	新潟観光開発株式会社
北陸ガス株式会社	一般社団法人生命保険協会	株式会社ノザワコーポレーション
亀田製菓株式会社	新潟県協会	東洋羽毛北信越販売株式会社
岩塚製菓株式会社	高田西城病院	
中越運送株式会社	新潟県行政書士会	

※企業・団体の賛助会員のみ掲載。

## 令和8年度 賛助会員を募集しています

### ◇お問い合わせ・お申し込みは

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会 総務管理課

〒950-8575 新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階

電話 025(281)5520 Fax 025(281)5528

ホームページ <https://www.fukushiniigata.or.jp>



認知症のこと、ひとりで悩んでいませんか？ ～お気軽にご相談ください～

**新潟県認知症  
コールセンター**

相談電話

**025-281-2783**

にほんのなやみ

【所在地】〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階(来所相談も可)

【相談時間】月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00

## 知事への要望

- 1 持続可能な地域社会を支える福祉人材の確保と基盤体制の整備について  
(福祉団体共通)
- 2 災害ボランティアセンター運営支援システム維持費用に係る財政支援  
(新潟県社会福祉協議会)
- 3 民生委員・児童委員活動への理解と協力の促進並びに「なりて確保」を図る広報活動の一層の強化・充実  
(新潟県民生委員児童委員協議会)
- 4 財政支援について  
(新潟県老人福祉施設協議会)
- 5 新潟県老人クラブ連合会の運営基盤強化への支援、現行補助金の増額について  
(新潟県老人クラブ連合会)
- 6 障害のある人のスポーツ活動を組織的・継続的に支援していくための体制強化について  
(新潟県身体障害者団体連合会)
- 7 急激な物価高騰や報酬改定を踏まえた要望について  
(新潟県手をつなぐ育成会)
- 8 ひとり親家庭等就業・自立支援センター事業の支援体制の強化について  
(新潟県ひとり親家庭福祉連合会)
- 9 新潟県地域生活定着促進事業および新潟県地域再犯防止推進事業における委託費の増額について  
(新潟県社会福祉士会)
- 10 介護職員のキャリアアップ支援と就労促進について  
(新潟県介護福祉士会)
- 11 介護支援専門員への介護職員等処遇改善加算について  
(新潟県介護支援専門員協会)
- 12 新潟県からの官需拡大と民需拡大に向けた発信のお願い  
(新潟県社会就労センター連絡協議会)

### 年の初めに

多いけれど、騒がしさはあまりなく、年の始まりらしい静けさを感じた。  
入り口の辺りで赤いジャンパーを着た人たちが数人立っていた。列が詰まると落ちていた声で進む方向を示し、足取りのおぼつかない人に



## さりげない支えに感謝

はさりげなく寄り添っている。急がせることも、立ち止まることもなく、ただ流れだけを整えているように見えた。厚手の上着を着ていてもじっと立ち続ける寒さは厳しいはずなのに、休むことなく誘導してくれていた。  
誰かに見られているためでも、特別な役目を強調するわけでもなく、ただ必要な場所にいる、という感じがした。その人たちがいることで列は不思議と落ち着き、参拝までの時間も穏やかに流れていくような感じがした。  
参拝を終えて、帰り道で通り過ぎるとき、「ありがとうございます」と伝えると、「寒いのでお気をつけてくださいね」と返してくれた。誰かが安心して手を合わせられるように、支えてくれる人がいる。その存在に気づいたとき神社の冷たい空気が少しだけ温かく感じた。

(ピコ)

ずむ  
2026  
Vol.88





## 新年度県予算案

令和8年度の新潟県予算案について、新潟県社会福祉協議会をはじめとする県内11の福祉団体が昨年12月25日、県庁を訪れ、花角英世知事に、福祉団体共通要望、各団体の重点要望や一般要望をまとめた共同要望書を提出しました。  
（重点要望項目は8ページに掲載）

# 人手不足、物価高へ対応を

## 県内福祉11団体、共同で知事に要望 知事「実現へ知恵絞りたい」



④県内11団体による花角知事への新年度予算要望

⑦予算要望の後、花角知事を囲んで歓談する各団体の代表者たち



各団体からとりまとめたのは、知事への福祉団体共通要望1項目と重点要望11項目。それと県福祉保健部

長への一般要望9項目です。重点要望では、福祉・介護サービスのニーズが多様化・複雑化する中で深刻さが増す一方の介護人材不足への対応や、福祉団体の財政基盤強化へ向けて、県の支援を求める訴えが並んでいます。

この日の面会では、団体を代表して県社協の高井盛雄会長が花角知事に要望書を手渡した後、各福祉団体

の代表が一人ずつ、厳しい現状などを知事に訴えました。

要望をひととおり聞いた花角知事は「団体運営の苦労や人材不足など最前線の生の声を聞かせていただいた。専門員の処遇をもっと上げないと、現場のサービス提供は難しくなる。みなさんの要望を可能な限り取り入れるよう、予算調整へ知恵を絞っていきたい」と述べました。

高井会長は「ぜひそれぞれの思いをくんでいただき、県民福祉の向上へ向けて施策に反映させていただきたい」と強調しました。

知事への要望に続き、各団体は県福祉保健部の中村洋心部長にも要望を行いました。要望を受けて中村部長は「どれも全部大事な事業と認識している。現場の厳しい状況を踏まえ、今後の予算編成の中でしっかり考えていきたい」とした上で、要望の一つ一つに回答しました。

障がいのある人も、子どももお年寄りも、みんなが一緒に楽しめるユニバーサルスポーツ。三条市社会福祉協議会では、出前講座や体験会などを通じて普及に力を入れています。「障がいの社会参加や多世代交流などのきっかけにもなる。さらに広めていきたい」と担当者は期待を込めています。

## 三条市社協「ユニバーサルスポーツ」



卓球バレー体験会で競技する参加者たち。障がいの有無や世代を超えて和気あいあいとした時間を過ごした11月6日、三条市総合福祉センター

## 垣根を超えた交流の場に

ユニバーサルスポーツは目や耳などが不自由な人も取り組める比較的運動量の軽い競技で、卓球バレー、ボッチャなどが知られています。三条市社協では、令和2年度から本格的に取り組んでいます。きっかけは、まちなかで

# 体動かし仲間になろう

ぴっくあっぷ  
Pick Up  
市町村社協

運営していた障がいの者の就労体験と交流の場「スマイル本町」の廃止でした。これに代わる新たな交流の機会を探る中で、ユニバーサルスポーツが浮上しました。先進地を視察したり、職員がパラスポーツ指導員の資格を取得したりして準備を進め、現在は卓球バレー、ボッチャ、スカットボール、フライングディスクの4競技をメインに展開しています。

ているほか、自前の用具をそろえて貸し出しも行っています。また、市スポーツ協会などと協力して、「ユニバーサルスポーツフェスタ」を令和4年度から毎年開催。参加者は回を追うごとに増え、毎回400人から500人が競技を楽しんでいるそうです。

1月6日、三条市総合福祉センターで今年最初の卓球バレーの体験会が開かれ、小学生からお年寄りまで約20人が参加。ボールを打ち合い歓声を上げました。

市内から参加した70代の女性は「ふだん体を動かす機会が少ないので参加したが、友達づくりにもなって楽しいです」と笑顔を見せていました。

三条市社協総務福祉係の梨本孝明係長は「体験会はいぶ定着してきた。勝負だけでなく、対話の時間を大切に行っている。もっと多くの人に参加してもらいたい」と話していました。

■三条市社会福祉協議会

三条市東本成寺 2-1  
☎ 0256 (33) 8511

三条市総合福祉センター内

三条市社協の  
ホームページは  
こちらから





ボールをスティックで打って得点穴にボールを入れる競技です。得点穴の周りにカーブがついていて、狙ったところに入りそうで入らないスリルが魅力です。高齢者や車いす利用者が打ちやすいよう、スティックの角度が変えられるものもあります（写真は昨年6月の体験会）。

## スカットボール



プラスチック製の円盤を投げて、ゴールを通過した回数を競う「アキュラシー」と、投げた距離を競う「ディスタンス」の2種目があります。円盤さえあればだれでもいつでも楽しめるのが魅力です（写真は昨年11月のユニバーサルスポーツフェスタ）。

## フライングディスク



# あなたもチャレンジ!!



## 卓球バレー

1チーム6人で、卓球台とピンポン球を使いバレーボールのように戦います。木の板のラケットで球を打ち、ネットの下を通して相手コートに返します。球は転がると音が出るようになっていて、目の不自由な人でもプレーすることが可能です（写真は1月6日の体験会）。



## ボッチャ

直径10センチほどの赤や青のボールを投げたり転がしたりして、目標となる白いボールにどれだけ近づけられるかを競います。パラリンピックの正式種目にもなっています。自分の力でボールを投げる人ができない人は「ランプ」という道具を使います（写真は昨年10月の体験会）。

**新潟県福祉人材センター** を  
利用してみませんか



福祉人材センター  
ホームページ

相談無料  
お問い合わせ

新潟県福祉人材センター

TEL. **025-281-5523**

9:00~17:00（土・日・祝日・年末・年始は除く）



福祉の仕事専門の  
無料職業紹介を  
行っています！



# 県社協など県内8団体に646万円



## BSN愛の募金

「BSN愛の募金」の贈呈式が昨年12月10日、新潟市中央区のBSN本社で行われⅡ写真Ⅱ、新潟県社会福祉協議会をはじめとする県内8団体に総額約646万円が贈られました。

BSN愛の募金は1982（昭和57）年に始まり、賛同企業や一般市民から寄せられた募金から毎年、

施設や団体などに寄付を行っています。

今回寄付を受けたのは、県社協のほか公益財団法人新潟県交通遺児基金、養護盲老人ホーム胎内やすらぎの家などです。県社協には120万円が贈られ、新潟市立乳児院「はるかぜ」など10施設に配分します。

贈呈式では、BSNの島田好久社長から県社協の高井盛雄会長らに目録が手渡されました。

## 年の瀬に善意をプレゼント

子どもたちの成長に役立ててほしいと、新潟ケンベイ（新潟市江南区）は昨年12月25日、おこめ券700万円相当を県社会福祉協議会に寄付しました。県社協では、県内の子ども食堂に配布することとしています。

同社の創立70周年記念事業として行いました。新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで行われた贈呈式Ⅱ写真

## 新潟ケンベイ 子ども食堂におこめ券700万円

Ⅱでは、新潟ケンベイの室橋聡社長が県社協の高井盛雄会長に目録を渡しました。

室橋社長は「未来を担う子どもたちにおなかいっぱいご飯を食べてもらいたい」とあいさつ。高井会長は「物価高騰で子ども食堂への影響は大きいですが、このおこめ券は子どもたちに安心と笑顔を届けてくれる。大切に使用していただく」と感謝の言葉を述べました。



## パレット新潟店営業日

2026年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

営業時間 11:30～16:30 □…は休業日

2026年 3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## 福祉の店 パレット情報

## 編集後記

「福祉にいがた」を担当して初めての新年を迎えました。まだまだ分からないことばかりで右往左往の日々ですが、「読んでますよ」と声をかけていただく機会も少しずつ増えてきました。それは筆者にとっても何よりの励みです。この1年も、親しみやすく読みごたえのある誌面を作っているところと気持ち新たにしているところです。

昨年末、職員研修で新潟市社会福祉協議会などにお邪魔して、組織の概要や取り組みの一端についてお話を伺う機会がありました。

最前線で住民と直接接している市町村社協は、それぞれ知恵を絞りながら地域のニーズに合わせた独自の取り組みを展開しています。今回の研修でも興味深い事例をいくつか知ることができました。それらを全県に発信するのは「福祉にいがた」の役割の一つだと思っています。

そんな狙いから昨年10月号でスタートした企画「びっくあっぷ市町村社協」。皮切りは新潟市社協の「助太刀事業」でした。1月号では、阿賀町社協の「ジョセササイズ」。第3回の今回は三条市社協の「ユニバーサルスポーツ」にスポットを当てました。どれもその地域ならではの事情が背景にあって「目からうろこ」です。今後市町村社協のチャレンジを積極的に紹介していこうと思います。情報提供をお待ちしています！（橋）

この機関誌は、  
赤い羽根共同募金の  
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会  
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ  
☎ 025-281-5584  
発行人／伊野 智彦  
定 価／5 円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた  
令和8年2月1日発行（毎月1日発行）  
印刷／島津印刷㈱